

# 平成13年度魚病診断結果

谷本 剛・湯浅 明彦

平成13年4月から平成14年3月の期間に、養殖魚および種苗生産や中間育成の過程で発生した魚病について、水産研究所への持ち込みと養殖場の巡回調査時に採取した検体について魚病診断及び薬剤感受性試験を行った結果を取りまとめた。

## 魚病診断結果

診断件数を表1および表2にまとめた。

内水面における診断件数は、アユ89件・ウナギ9件・アマゴ4件であり、総計は102件であった。海面における診断件数は、ブリ5件・カンパチ4件・ヒラメ14件・トラフグ1件・マダイ1件・その他魚類が4件であり、総計は29件であった。

淡水魚では、アユで冷水病およびシュウドモナス病の診断件数が71%を占め、3月から4月にかけて最も多く発生が見られた。ウナギでは前年度に続いて鰓弁充血症が1件確認された。

海産魚では、ブリでノカルジア症、カンパチでミコバクテリア症が各1件確認された。また、ブリ当歳魚でウイルス性腹水症（YAV）が1件、イリドウイルスがカンパチで1件、イシガキダイで2件確認された。ヒラメでは、貧血症の原因であるネオヘテロボツリウムの寄生が1件確認された。

表1 平成13年度診断結果(淡水魚)

魚種名	病名	年 2001										2002			計	
		月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
アユ	シュウドモナス病		7	2	1	3	1					3		2	2	21
	シュウドモナス病+真菌性肉芽腫症			1												1
	冷水病		4	2	4	2					1	3	2	7	25	
	冷水病+シュウドモナス病		3	2							1	1		3	10	
	冷水病+ビブリオ病											1			1	
	冷水病+シュウドモナス病+ビブリオ病											1			1	
	冷水病+シュウドモナス病+真菌性肉芽腫症			1											1	
	冷水病+真菌性肉芽腫症			1											1	
	冷水病+ギロダクテリス症+エロモナス症								1						1	
	冷水病+チヨウチン病		1												1	
	ビブリオ病		1		1									4	6	
	エロモナス症												1		1	
	真菌性肉芽腫症			1											1	
	連鎖球菌症						1								1	
	不明		6	2	1	5					1	1		1	17	
小計		22	12	7	11	1	1	0	0	6	7	5	17	89		
ウナギ	鰓弁充血症							1							1	
	バラコ病								1					1	2	
	トリコジナ症			1											1	
	カラムナリス症+シュードダクテロギルス症							1							1	
	メトヘモグロビン血症		1												1	
	栄養障害				1										1	
	不明				1					1					2	
小計		1	1	2	0	1	1	2	0	0	0	0	1	9		
アマゴ	せっそう病			1											1	
	内臓真菌症										1				1	
	白点病						1								1	
	不明				1										1	
小計		0	1	1	0	1	0	0	0	0	1	0	0	4		
合計		23	14	10	11	3	2	2	0	6	8	5	18	102		

表2 平成13年度診断結果(海水魚)

魚種名	年 病名	2001										2002			計		
		月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3			
ブリ(0才)	YAV				1												1
	連鎖球菌症													1			1
	小計	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0			2
ブリ(1才)	連鎖球菌症								1					1			2
	ノカルジア症									1							1
	小計	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	0			3
カンパチ	イリドウイルス症						1										1
	ミコバクテリア症				1												1
	ヘテラキシネ症												1				1
	ヘテラキシネ症+血管内吸虫症															1	1
	小計	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	1	0	1			4
ヒラメ	ビブリオ病		2														2
	スクーチカ症				2	1											3
	ネオヘテロボツリウム症												1				1
	コスチア症													1			1
	不明		2	1				1	1	1	1					1	7
	小計	0	4	3	1	0	1	1	1	1	0	1	1	1	1	1	14
トラフグ	健康診断							1									1
マダイ	ビバギナ症+クビナガ鉤頭虫															1	1
イシガキダイ	イリドウイルス症								2								2
キジハタ	不明												1				1
クロアワビ	筋萎縮症					1											1
合計		0	4	5	2	1	3	4	1	0	3	3	3	3			29

### 薬剤感受性試験結果

アユの冷水病菌*Flavobacterium psychrophilum*は、前年度同様にスルフィソゾール(SIZ)およびフロルフェニコール(FF)に対して全ての菌株で高い感受性を示した。しかし、この2剤以外ではオキシリン酸(OA)とスルファモメトキシシ(SMMX)およびスルファモメトキシシ・オルメトプリム(SO)に対して低い感受性を示す菌株や感受性の示さない菌株が見られた。(表3)。また、シュードモナス病菌*Pseudomonas plecoglossicida*の全ての菌株で、検査した薬剤に対して感受性を示さなかった(表4)。

ブリの連鎖球菌*Enterococcus seriolicida*は、FFおよびアンピシリン(ABPC)に対して全ての菌株で高い感受性を示した。しかし、OAは全ての菌株で感受性を示さなかった(表5)。

表3 アユから分離した*Flavobacterium psychrophilum*の薬剤感受性試験結果

感受性程度	薬剤名				
	SMMX	SIZ	OA	FF	SO
-	2				2
+	2		3		1
++			2		
+++	2	6	1	6	3

表4 アユから分離した*Pseudomonas plecoglossicida*の薬剤感受性試験結果

感受性程度	薬剤名				
	SMMX	SIZ	OA	FF	SO
-	5	5	5	5	5
+					
++					
+++					

表5 ブリから分離した*Enterococcus seriolicida*の薬剤感受性試験結果

感受性程度	薬剤名				
	OTC	EM	ABPC	FF	OA
-	1	1			5
+					
++	3	2			
+++	1	2	5	5	